

## 釜石市中心市街地東部地区商業推進協議会開催結果

○日 時：平成26年5月20日（火）午後1：30～午後3：00

○場 所：釜石市役所第4庁舎第7会議室

○出席者：裏面のとおり

○次第

1. 市長あいさつ

2. 議事

(1)報告第1号 東部地区フロントプロジェクトについて

(2)報告第2号 復旧・復興支援策について

○結 果（要約）

《報告第1号 主な意見》

- ・市外から来た人が、東部地区を車で回れる仕組みを作っていただきたい。
- ・イオン利用者が商店街に立ち寄れるよう、駐車場を設けてほしい。
- ・商店街で何か考えて努力をすれば、回遊性が生まれるのではないか。
- ・情報交流センターだけではなく、商店街でもミッフィーを利用したい。
- ・イオンが開業したが、心配したほどの渋滞は起きていない。
- ・インフラ整備は進んでいるものの、まちなぎわいはソフトが欠かせない。

《報告第2号 主な質問、意見》

- ・天神町の仮設住宅から早く移っていただいて、市庁舎を建てるという考えもあるのではないか？

(回答) 仮設住宅退去の問題もあるが、順番として、市庁舎は復興の最後に建設しようと考えている。FP2でも人の動きを市役所に求めるのは、だいぶ後になる。市役所の周りの利用も大事であり、駐車場などがある只越は、人を集める要の場所になると考えている。

《その他 主な意見》

- ・イオンタウン来店客は、3月中は日曜日2万人、平日1万人。4、5月は日曜日は1万5千人、平日7～8千人。
- ・約8割が車で来店。範囲も山田町・宮古～陸前高田・気仙沼、遠野など広域。
- ・釜石駅から東部地区に人を呼ぶためには、このエリアに魅力や「ひきつけるもの」が必要。「ここでしか食べられない」料理を出す店など、ソフト面を充実するべき。

第6回釜石市中心市街地東部地区商業推進協議会

【出席者名簿】

No.	所 属	職 名	氏 名
1	釜石商工会議所	会頭	山 崎 長 也
2	釜石市商店会連合会	副会長	佐々木 雅 昭
3	大渡町商店街振興組合	理事長	小笠原 順 一
4	大町商店街振興組合	理事長	新 里 耕 司
5	只越町商店街振興組合	理事長	片 倉 静 祐
6	浜町1丁目商業者	代表	加 藤 裕 二
7	釜石東部地区商店街グループ	代表	齊 藤 裕 基
8	岩手県沿岸広域振興局	副局長兼経営企画部長	西 村 豊
9	イオンタウン釜石	モールマネージャー	及 川 和 之
10	釜石まちづくり株式会社	取締役事業部長	谷 澤 栄 一
11	釜石市	市長	野 田 武 則
12	〃	総務企画部長	小 林 俊 輔
13	〃	産業振興部長	渡 部 秀 幸

〔事務局〕

釜石市復興推進本部都市整備推進室	室 長	正 木 隆 司
総務企画部総合政策課	課 長	佐々木 勝
産業振興部商工労政課	課 長	平 松 福 壽
	課長補佐	菊 池 俊 彦
	主 査	小笠原 弘 明
	主 任	酒 井 智 則

〔その他出席者〕

岩手県沿岸広域振興局経営企画部産業振興課 主任主査 北 栞 玲 子

## 【協議会結果】詳細

### ○議事

#### (1)報告第1号 東部地区フロントプロジェクトについて

- ・平松課長より説明

#### (2) 報告第2号 復旧・復興支援策について

- ・平松課長より説明

#### (3) その他

- ・釜石まちづくり会社の概要について、谷澤委員より説明
- ・イオンタウン開店後の概況について、及川委員より説明

### 《報告第1号について》

佐々木委員 人の流れ、動線について説明があったが、このとおりにつながるといえるのか？

平松課長 それを目指しているが、急には難しい。グリーンベルトも一つの役割を果たすと考えている。新しい道路や橋ができると、新日鉄の専用橋を通らずに渡れるようになる。

山崎会長 橋はいつできるのか？

市長 平成27年度である。

山崎会長 市役所はまあ、時間がかかる。

齊藤委員 東部地区の現況についての説明で、グループ補助金を受けたところの状況が、私たちがつかんでいたのと違っていた。震災前の債務もあり、復旧がなかなか進んでいないと聞いていたが、説明を聞き、グループとして多くの人が復旧しているのだと再認識した。

小笠原委員 新しい橋も含めて、引き続き動線を確保してほしい。大渡など、外から釜石に来た人が車で回れる仕組みを作っていただきたい。

平松課長 JR利用者など、駅から大渡まで歩く人も増えている。ショッピングセンターもでき、相乗効果が出るまちづくりを進めていきたい。

小笠原委員 イオン利用者が商店街に立ち寄れるよう、駐車場を設けてほしい。

平松課長 釜石の人は200メートルでも車に乗りたがるが、ぜひ歩いてほしい。駅から大町までは800メートル。楽しく、歩きたくなるまちになれば良いと思う。

齊藤委員 イオンができて、駐車場から（店内に）入る客だけではなく、まち側から歩いている客も増えており、私たち商店街でも何か考えなければならないと思う。私たちが努力をすれば、回遊性が生まれるのではないかと。

山崎会長 イオン利用者にとっても魅力のある商店街にしてほしい。

新里委員 情報交流センターにも、店舗が入る予定か？

平松課長 ミッフィーカフェのほかに、大バコが入る。

新里委員 復興住宅の1・2階商業施設入店者はどのように集めているか？

平松課長 新聞で公募したほか、現在再公募中だ。

新里委員 新聞だけでなく、被災した所に直接情報を発信しないと「知らなかった」と言われてしまう。

平松課長 仮設店舗にチラシを配り、問い合わせも来ている。

山崎会長 効果ある情報提供の方法を考えてほしい。

片倉委員 情報交流センターだけではなく、商店街としてもミッフィーを利用できないものか？

平松課長 利用範囲を決めるため6月中を目途に、ディックブルーナ・ジャパンと協定を結ぶ。我々としてもなるべくいっぱい使いたいと考えているが、向こうから「震災復興とはいえ考え方には限界がある」と言われている。でも、頑張りたい。

加藤委員 イオンが開業して2か月、予想していたより車の交通量は増えず、心配したほどの渋滞は起きていない。行政で交通量の調査をしていれば、お聞きしたい。

平松課長 大町のデータはないが、仙人峠などで若干増えているものの、数倍になったというわけではない。ショッピングセンターが誘導員を配置したり、看板を設置したりしたことの効果も出ているだろうが、もう少し注視していきたい。

及川委員 インフラ整備は進んでいるものの、まちなにぎわいはソフトが欠かせない。「人々が歩きたがらない」とか、「商店街はあまりアタマを下げない」とかいろいろあるなかで、「誰がどう楽しむか」という一本の「筋」を考えるべき。イオンの周りをジョギングしている人もいるし、健康を考えて歩きまわるというのも（ソフトの）一つ。主たる生活者である女性の意見も入れたほうがいい。交通渋滞については、大きな苦情がなくて良かったが、今までの釜石の人のライフスタイルは「朝早く起きて一斉に仕事に行き、5時頃一斉に帰る」というもの。私たちは仕事のない土日に使っていただけたらと考えていたが、多様性のあるライフスタイルで生活していただくと、まちも活性化するのではないか。

山崎会長 （交通渋滞等がないのは）釜石のドライバーが紳士的で、きちんとやっている結果だろう。

谷澤委員 市の指定管理を受けながら、エリアマネジメントでまちなにぎわいを作り出すのが私たちの会社のしごとだと考えている。回遊性を高めて、人々を歩かせるためには、イベントやWAONカードを商店街に広げるなどいろいろな知恵があると思う。

商店街やイオン、これからまちなかに出てくる事業者たちとも話し合い、ワークショップよりも高いレベルで情報を共有しながら、高齢者や学生さんの意見を聞く場も設けて、皆さんの協力をいただきながら、にぎわいを具現化していきたい。

山崎会長 大町共同店舗の入店者は決まったのか？

谷澤委員 公募で決めた。思ったより応募は少なく、「イオンの隣でやってもだめだろう」

と、ちょっと古い保守的な考え方の事業者も多かった。実際にできた後に「やっぱり入れれば良かった」という人も出るだろう。

災害復興住宅や未整備の只越町のあたりも、みんなで知恵を出して、只越でも私たちがオブザーバーとして参加して、意見を集約する方法もあるのではないかな。

#### 《報告第2号について》

山崎会長 天神町の仮設住宅から早く移っていただいて、市庁舎を建てるという考えもあるだろう。旧一中の復興公営住宅は平成27年度の完成か？

市長 そうである。

山崎会長 天神町の仮設住宅の方がそこ（旧一中の住宅）に入居するのだろうが、それだけでは足りない。いつ頃まで天神町の仮設住宅の人みんなが移っていくのか？

市長 天神町の人たちが東部地区のどの復興住宅に入るかはわからない。目の前に復興住宅ができたからと言って、みんながそこに入るという訳ではない。希望を取りながら、今年10月には最終的な入居申し込みを取るなので、その時点では（移転の目途が）わかるだろう。

谷澤委員 10月は希望調査ではなく、募集ということか？

市長 募集である。

山崎会長 市営駐車場跡（に建てる復興公営住宅）と合わせて何戸か？

正木室長 94戸である。

市長 仮設住宅退去の問題もあるが、順番として、市庁舎は復興の最後に建設しようと考えている。FP2でも人の動きを市役所に求めるのは、だいぶ後になる。市役所のある只越の駐車場を、今日も皆さん使っていると思うが、大渡には駐車場が足りない。人の動線を作るためには、「どうしてもここに行きたい」というものを作らなければならない。市役所そのものを作ることも大事だが、市役所の周りの利用も大事だ。FP3も駐車場が必要。そういった面で只越は、人を集める要の場所になると考えている。

片倉委員 旧文化会館は、代替地として壊すと思うが、いつ着工するのか？

平松課長 今週、周辺の皆さんに説明を行い、その後着工する。

#### 《その他》

及川委員 イオンタウンが開業してから2か月が経った。現状を報告したい。

- ・来店者は3月中は日曜日2万人、平日1万人と予想通り
- ・4、5月になって日曜日は1万5千人、平日7～8千人まで落ちている。
- ・ゴールデン・ウィークは、釜石市は流入地であり、相当のお客さんが来たようだ。
- ・オープン時は47店舗。ゴールデン・ウィーク前後にフードコートまわり3

店舗を含め6店舗が開店し、「混雑して食べられない」という状況は解消された。6、7月にはさらに飲食店を2店舗オープンする。お盆や下半期など、時期に合わせた改装なども行っていきたい。

- ・飲食店、靴・カバン・アクセサリ、ゲーム・大型スポーツ専門店などの売り上げが大きい。
- ・アパレルは、天候不順のせいもあり店ごとに売り上げに差が出ている。6、7月にバーゲンを行って商品を切り替える際に、集客が見込まれる。
- ・スーパーセンターでは、産直「ゆいのはま」が人気で、商品が足りない。まだまだ品物を出す余地があるので、地元の皆さんに参加してもらいたい。
- ・従業員は70～80%の充足率。現在も27店舗で募集を行っている。6月にかけて、まだ人が足りない専門店を中心に募集したい。
- ・4月後半の土日に来店客調査を行った。交通手段は8割が車、7%が徒歩、5%がバス、4%が自転車。範囲も山田町・宮古～陸前高田・気仙沼、遠野など広域から来ている。
- ・個別意見としては「駐車場が分かりにくい」、「店内が広くて迷ってしまう」などの声もあり、表示を増やしていきたい。専門店の空き区画に出店してほしいという要望はスターバックス、ケンタッキー、マクドナルドの「御三家」が多く、沿岸地域にはまだない「ドッグ・ラン」を作してほしいという声もあった。
- ・「まちの活気が出た」、「夜、(イオンのネオンが)光っているだけで嬉しい」、「ここに来ると誰かに会える」などの声もあった。
- ・インスタ・ライブや子供向けのキャラクターショーなども開き、5月2日には、子供たちが作ったこいのぼりのバルーンを飾り、おじいちゃんおばあちゃんと一緒にバルーンを見に来てもらうなど参加型の催しもしている。
- ・視察も多く、「採算が合うのか」などと聞かれるが、全国的に注目されており、協力しながら新しいまちづくりをしていきたい。

山崎会長 カラオケ店はあるのか？

及川委員 100%決定という訳ではないが、7月中頃～後半には入る予定。

山崎会長 震災後、みんな外で騒ぐことができない。歌のうまい、下手に関わらず、歌える場所が欲しいと思っていた。

西村委員 私は都市計画の仕事を7年ぐらいやっていた。その観点から話をしたい。

「歩いて回れる」というのはコンパクトシティの考え方。住居と商業地域を近くに設けるのは良いことだ。

釜石駅から橋を渡って大町に来させるためには、このエリアに魅力や「ひきつけるもの」が必要だ。「ひきつけるもの」は一般的に、初めてのもの・ここにしかないもの・珍しいものだ。

釜石駅周辺でデイパックを背負い、帽子をかぶった人をよく見かける。釜石の

人ではないようだが、そういう人たちが橋を渡るような工夫が必要だ。  
フィッシャーメンズ・ワークのようなものに、岩手ならではの、釜石ならではの「ここでしか食べられない」料理を出す店を作るなど、ソフト面を充実すると良い。盛岡には、そこまで1時間くらいかけてわざわざ食べに来るようなそば屋があった。一点豪華主義というか、そういう一品があれば良い。  
SL銀河もせっかくあるので、うちの振興局でもいろいろ考えたい。

山崎会長 釜石は鉄と魚のまち。外から釜石に転勤が決まると「おいしい魚が食べられる」と言われるそうだが、実際はそうではない。  
釜石の漁は定置網で、売り物にならずに捨てる魚がたくさんある。そういうものを本格的に活用するのならタダでも手に入るし。目玉としてゲテモノの魚を良い料理で食べさせるというのも一つの考えだ。

平松課長 この会議について、次回は秋ごろを目途に開催したい。

市長 先ほど話題に出た車の通行量だが、市民の車所有台数は震災前2万7千600台だったのが、震災で2万2千台まで減り、平成24年度には2万3千台まで復活している。

元の釜石警察署があったあたりの交通量は、平成22年度の1万7千台から、24年度には2万1千台まで増えている。もちろん被災後に支援車両や工事車両も増えているが、イオン開店後には正式な数字ではないが2万4千台くらいになっている。所有台数は震災前まで戻っていないのに、通行量はこれだけ増えている。

また、イオン開店前までは朝夕のラッシュがひどかったが、開店後にはなくなった。寄り道ができるようになり、ライフスタイルが広がったのかもしれない。仙人峠道路も、朝（釜石から）出て行って夕方に戻ってくる車は減っているようだ。

まだまだスタートに立ったところで、段階を踏んで進んで行かなければならないが、歩いて楽しめるまちづくりということで、店を出す人たちにも役割を認識してもらって、まちづくりにつながるようにしてもらいたい。

大まかな計画はこの協議会で作っていくが、具体的なことは商店街の連携が重要だ。ヨコのつながり、結束を固めていただき、イオンやまちづくり会社とも情報交換を進めてほしい。引き続き皆様のご協力をお願いしたい。